

2月20日(木) 4階B室 9:00~9:40

1 単元名 「身近な生活を見つめることからー快適空間ビフォーアフターー」

2 単元について

家庭科の学習は、子どもたちひとりひとりが身近な生活を見つめることから始まる。そして、そこに自分なりの課題(問い)を見つけ、解決方法を考え、工夫や修正をくり返しながら、自分の力でよりよい生活を創造していける力を育みたい。本単元では、学校の机の中という空間に焦点をあて、こうした家庭科の学びの過程を実感するとともに、自分なりの「快適空間」を探究させたいと考えた。

活動のメインは、整理整頓が苦手なお茶かおるさんの机の中をいかにして使いやすい快適空間にするかについて、子どもたちが「快適空間研究所」を結成して考えることである。子どもたちの現状から学習をスタートすることも可能だが、そうすると、「きれいにしている子がよい子」という評価や「整理整頓をすべき」という精神論に帰着するきらいがある。そこで、いきなり自分を語るのではなく、自分の生活を客観的に見つめることができるように、媒介となる第三者(お茶かおるさん…図1)を登場させた。そうすることで、精神的あるべき論に終わることなく、具体的で現実的な意見が行き交う場が期待できると考えた。

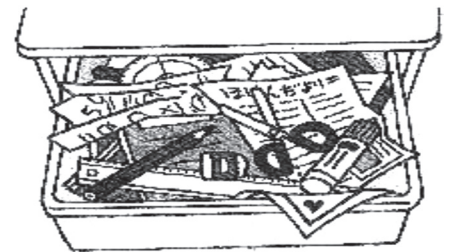


図1 お茶かおるさんの机の中

出典: 福田啓子(2010)「やってみよう整理・整頓『小学校 新学習指導要領の授業 家庭科実践事例集』岡陽子編著 小学館 p.33

そして、整理整頓には、すぐにやるべきことや、やりたい作業に取りかかる時間的効果、きちんと整えられた環境に身を置くと気分がすっきりする精神的効果、自分が何を持っているかをはっきりさせることで、物を買過ぎない経済的効果、と、同時に、消費者には買ったものを大切に使う責任があることに気づかせたい。学習を通して、自分と物と生活とのかかわりをあみ直せるとよいと考えている。

3 学習指導計画(1時間目/全3時間)

- 第1次 お茶かおるさんの机の中を示したイラストを見て課題を指摘し、「学校の机の中の快適空間とは？」を明らかにしながら整理整頓の意味を考える。…本時1時間
- 第2次 グループごとに話し合い、使いやすい空間にするための提案をキーワードで示す。…1時間
- 第3次 他のグループの発表を聴き、「自分にとっての快適空間とは？」を明らかにして、実際に試してみる。…1時間

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

- ・お茶かおるさんの机の中を示したイラストを見て、課題(小学生として困ること)を指摘する。
- ・整理整頓には、どのような意味があるか考える。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 お茶かおるさんのお悩みを知り、小学生として困ることは何かを考える。	・自分の生活経験や、友だちの意見を聞いて気がついたことから、課題を明らかにし、それはなぜなのかを考えさせる。
2 整理整頓にはどのような意味があるか、考える。	・整理整頓には精神的、時間的、経済的な意味があり、物を少なく持つ意識や消費者の使う責任につながることに気づかせる。